

令和 8 年度 北海道 英語教育改善プラン

目標

小・中学校一貫して外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力と児童の英語を学ぶ意欲の育成

☑ 言語活動 ☑ 指導と評価の一体化 ☑ 教師の英語力・指導力 ☑ 校種間連携 ☑ ALTの参画 ☑ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① エビデンスに基づき英語の授業を見直し改善を「図った」割合は増加傾向。
・87.7%(R5)⇒98.9%(R6)
(教育活動等に関する調査(道独自))
- ② 道内全ての学校で、英語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況を位置付けた言語活動を実施。
・100.0%(R6)
(教育活動等に関する調査(道独自))

未だ改善が必要な点

- ① 学習到達目標を児童と共有することが必要。
※児童と共有した学校の割合
・R6 : 87.1%
(教育活動等に関する調査(道独自))
- ② 学習者用デジタル教科書を積極的に活用することが必要。
※週3回以上使用した学校の割合
・R6 : 74.2%
(教育活動等に関する調査(道独自))

2. 要因分析

- ① 英語教育に関する研修等において、エビデンスに基づく授業改善について説明や協議を実施したことで、英検ESGの結果等を活用した授業改善が図られたと考えられる。
- ② 各種研修会において、繰り返し言語活動の充実に向けた説明や協議を実施したことで、相手意識や目的意識を大切に言語活動が充実してきたと考えられる。

- ① 交流の機会の設定に地域間の差が見られる。地域によっては、「知識及び技能」の習得にとどまり、それを活用してコミュニケーションを図る十分な活動ができないことが要因と考えられる。
- ② 教師主導の一斉指導が行われ、児童自身が主体的に学習するような活動が十分に行われていないことなどが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①② 小・中学校一貫した外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成
 - ・系統的な指導の充実のため、「生徒の英語力向上推進事業」において、道内の中核となる英語担当教員による「英語教育推進チーム」が、実践テーマに基づく授業改善を推進し、その成果を指導資料として全道に周知。
 - 〔実践テーマ〕
 - ・言語活動を通した指導の充実
 - ・「指導と評価の一体化」に係る工夫
 - ・ALT等やデジタル学習基盤の活用
 - ・教育課程調査官を招聘し、外国語でコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成に向けた授業づくりに関する講義、協議を行う研修会を実施。
- ①② 児童の英語を学ぶ意欲の育成
 - ・外部講師の講話や推進チームによる実践発表等を通して、デジタル教科書等のデジタル学習基盤を活用した授業の在り方や系統的な指導の重要性について理解を深める研修会を実施。
 - ・児童が英語を学ぶ意義や楽しさを感じられる授業改善を一層推進するため、他地域に住むALT等とオンラインで交流する機会の促進や、オンラインを活用した交流に係る実践事例の提供

令和 8 年度 北海道 英語教育改善プラン

小・中学校一貫して外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力と生徒の英語を学ぶ意欲の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7 : 45.2% ⇒ R8 : 58.0%)

目標

☑ 言語活動 ☑ 指導と評価の一体化 ☑ 教師の英語力・指導力 ☑ 校種間連携 ☑ ALTの参画 ☑ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① エビデンスに基づき英語の授業を見直し改善を「図った」割合は増加傾向。
・91.7%(R5)⇒99.6%(R6)
(教育活動等に関する調査(道独自))
- ② 英語の授業においてオンライン会話を「実施した」割合が全国平均を上回った。
(R7)
・28.6%(道) 25.6%(全国)
(英語教育実施状況調査)

未だ改善が必要な点

- ① 学習到達目標を近隣の小学校教員と交流することが必要。
※交流した学校の割合
・R6 : 71.2%
(教育活動等に関する調査(道独自))
- ② 学年が上がるにつれて生徒の英語が「好き」の割合は減少傾向。
・第1学年 : 56.4%
・第2学年 : 46.1%
・第3学年 : 43.3%
(英検IBA生徒アンケート)

2. 要因分析

- ① 英語教育に関する研修等において、エビデンスに基づく授業改善について説明や協議を実施したことで、英検IBAの結果やパフォーマンステストの結果を活用した授業改善が図られたと考えられる。
- ② 他地域に住むALT等とオンラインで交流する機会を整備したことで、生きた英語に触れる機会が充実してきたと考えられる。

- ① 交流の機会に地域間の差が見られる。地域によっては、系統的な学習到達目標を踏まえ授業づくりの必要性について理解が深まっていないことが要因と考えられる。
- ② 文法や語彙等の指導について、コミュニケーションを意識した言語活動が十分に行われていないことなどが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 小・中学校一貫した外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成
・系統的な指導の充実のため、「生徒の英語力向上推進事業」において、道内の中核となる英語担当教員による「英語教育推進チーム」が、実践テーマに基づく授業改善を推進し、その成果を指導資料として全道に周知。
〔実践テーマ〕
・言語活動を通した指導の充実
・「指導と評価の一体化」に係る工夫
・ALT等やデジタル学習基盤の活用
・道内の英語担当教員が参加できるようオンラインを活用した推進チームによる実践交流や各学校における日常の授業改善に関する課題解決に向けた定期交流会を実施。
- ② 生徒の英語を学ぶ意欲の育成
・生徒が英語を学ぶ意義や楽しさを感じられる授業改善を一層推進するため、他地域に住むALT等とオンラインで交流する機会の促進や、オンラインを活用した交流に係る実践事例の提供。
・外部講師の講話や推進チームによる実践発表等を通して、調査結果等を活用した授業改善の必要性や系統的な指導の重要性について理解を深める研修会を実施。

令和 8 年度 北海道 英語教育改善プラン

目的や場面、状況等に応じて、複数領域の統合的な言語活動を通して、情報を整理しながら考えを形成し、適切に表現したり伝え合ったりする力の育成

目標

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 49.3%、B1以上 18.8% ⇒ R8 : A2以上 58%、B1以上 28%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①生徒の英語力について、CEFR B1レベル相当以上の割合が増加。
【R6:15.6% ⇒ R7:18.8%】
- ②授業中の教員の英語使用の割合は、全国上位を維持。(発話の50%以上)
【R6:70.4% ⇒ R7:85.5%】

- ①ALT等と英語を使ってやりとりする時間が少ない学校が多い。(ALT等の授業への参画割合が授業時数の25%未満)
【参考 R7:46.9%】
- ②教員の英語力について、CEFR B2レベル相当以上は増加したが、全国と比較して低い状況。
【参考 R7:58.1%】

2. 要因分析

- ①②道教委が実施する教員対象のセミナーや、道教委作成の「高等学校教育課程編成・実施の手引」等を通して、英語による言語活動の充実や探究的な学びに関する教員の理解が深まったことにより、コミュニケーションの目的や場面、状況などを適切に設定した、生徒の英語による言語活動を中心とする授業改善が進んだと考えられる。
- ①広域分散型の北海道において、地域によっては、ALT等の訪問日が限られ、やりとりの機会が十分に得られていないと考えられる。
- ②英語の外部試験の受験会場の関係から、地域によっては、外部試験の受験のために移動の時間と費用がかかること、また、教員が、自身の英語力向上のための時間を確保できていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①①「AIを活用した英語教育強化の取組」
 - ・AIの活用による、生徒が多様な話題について英語でやりとりする機会の充実と、言語活動の質的向上を図ることを目的とした実証研究の取組を行うとともに、本取組の成果について教員対象のセミナーや、「高等学校教育課程編成・実施の手引」等を通して全道に普及する。
- ①②「Hokkaido パフォーマンステスト参考資料」の作成
 - ・中高教員が協働し、生徒の習熟度等を踏まえ、コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確にした言語活動の設定と、目標を達成するための授業づくりのポイントを明示した参考資料を作成する。

〔参考〕<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/179502.html>
- ①②「高等学校教育課程編成・実施の手引」の作成及び北海道高等学校各教科等教育課程研究協議会の実施
 - ・指導主事と高校教員が協働して作成した手引を活用し、授業における生徒の英語による言語活動の充実と、生徒の言語活動を支える教師の英語使用を一層促す。

〔参考〕<https://www.koukou.hokkaido-c.ed.jp/tebiki/r7/r7gaikokugo.pdf>
- ②特別受験制度の周知及び受験奨励
 - ・指導主事による学校訪問や教員対象のセミナー等の機会において、本制度を繰り返し周知し、オンライン受験も含めた外部試験等の受験を促し、教員の英語力向上に資する。

北海道教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		52	49.3	54	50.7	56	49.3	58		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		26	15.3	26	15.6	27	18.8	28		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	87.8	100	94	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	76.2	100	76	100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	87.8	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	89.9	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		75	55.1	75	56.8	75	58.1	75		75	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		85	76.2	86	70.4	87	85.5	88		90	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		52	49.1	53	46.8	56	45.2	58		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	90.5	93		96		98		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	93.7	96		98		99		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	87.3	91		94		97		100	
		達成状況の把握（％）	100	96.6	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	42.4	45	44.2	47	53.3	55		60	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100	82.1	87		92		96		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	98.8	100		100		100		100	
		公表（％）	90	74.5	82		88		94		100	
		達成状況の把握（％）	100	96.3	100		100		100		100	